

第2分科会：北朝鮮

北朝鮮の観光資源評価

佐々木宏茂（東洋大学）

北朝鮮の観光資源評価について、現今における政治的諸問題は将来いずれ解決されるものとして、観光資源を考察する。昨年平壤と近郊の観光地を訪問したことがあるのでその概略を報告して、宣伝用であるが若干のビデオを見てもらう。

1. 観光資源の特異性は世界遺産評価基準であるオーセンティシティに集約される。
2. 北朝鮮の観光資源は政治的問題が解決されるならば多くの外客を引き寄せる魅力を持っている故、そのオーセンティシティを独裁者に最敬礼することなく観光させる寛容さが問われる。
3. 現今、先進諸国ではエコツーリズム、ないしサステナブルツーリズムが価値ある観光として評価されている。
4. こうした観点から、北朝鮮が観光に力をいれて外貨を得ようとするならば、自然資源に手を加えていないことから、エコツーリズムに意外な展望と政策が見込まれるではなかろうか。
5. 観光資源の活用は観光政策と大きく関わるが、北朝鮮は産業によって特に大きくダメージを受けていない自然資源を観光にどのように生かすか、そのための意識改革が問われる。
6. 昨年の韓国へ訪問した日本人は約200万人であり、北朝鮮を訪問のそれは10万人である。これは政治状況がしからしめるものであるか、平和的状况と受け入れ態勢の可能性が現出すれば、韓国訪問客の30%くらいはすぐに達成できるであろう。
7. 自然資源以外に社会資源、文化資源を対象とした場合は、その開発と保全に相当の努力が必要であろう。
8. 観光は経済収入を得るためには、その国の文化や社会が観光客の要望に合わせるのは当然であるが、それが過ぎると魅力を失う。
9. 平和を獲得して観光客を受け入れる基本姿勢が問われることになるので、北朝鮮の独特さや個性を政治的圧力を受けずに達成することは、さまざまな困難に直面するであろうが、潜在的観光資源の価値は存在する。
10. 観光資源は、ホスト側の人間の受け入れ態勢とホスト側の観光のあり方に対する考え方、それ自身が観光資源を形成するので、北朝鮮がWTO（世界観光機関連盟）会議に積極的に参加して、まず多くの情報をえて観光に対する有効性を自覚するか否かが大きく問われることになる。潜在的には観光の重要性を自覚していることは、観光ガイド養成に力点を置いている点から判断すると確かである。

COMMENT

梁 春 香 (東洋大学)

北朝鮮というと、よく「近くて、遠い国だ」と言われている。つまり物理的に遠いのではなくて、お互いに知らないのが、心理的に遠くなっているといえよう。このような「距離」を縮むために、お互いに知ることが第一歩であるが、この学会で北朝鮮の観光について研究課題としてとりあげることは北朝鮮を知るには意義が大きいと思う。

佐々木先生の研究発表を通して、まず北朝鮮の観光資源を知ることができた。ご報告の内容をまとめると、北朝鮮の観光資源について、①地域性がある、②特色がある、③遺跡の話題性がある、という3点である。そして、この豊かな観光資源が多くの場合、観光対象として、活用されていないのが現状だというご指摘もあった。

その地域性というと、地理的にユーラシア大陸の「乳房」とされる半島に位置し、東西文化の接点にあるとも言える。その意味で北朝鮮の観光資源は大陸の強い影響を受けた半島という地域性と

東洋文化といった特色を持ち、かつ多くの史跡が残っている。観光資源は自然と人文に分類することができる。北朝鮮のそのどれも豊で、観光対象としての活用は可能で、観光対象の魅力も潜んでいる。とくに史跡の観光資源は文化価値の高いもので観光対象として高く評価されている。

なお、観光資源に対して評価を行なう場合、評価のアセスメントが必要であるが、北朝鮮の観光資源の評価となると、どのような基準でもって評価するかはまず考える必要があると思う。また国内観光、国際観光の観光対象になるかによって、その評価基準が違ってくる。いずれにせよ、観光資源を評価する場合は、国際社会で一般的に通用される評価基準で行なうべきであるが、北朝鮮の現状からいえば、現在尚早かも知れない。したがって北朝鮮の観光資源に対して、どんな基準でどのように評価が行なわれているかはまず大きな課題ではないかと思う。

The Progress of *Mt. Geumgangsán* Tour Special Zone and Its Evaluation

SHIM Ui Sup (Myongji University, KOREA)

The Geumgangsán [*The Geumgangsán Diamond Mountain, or Mt. Geumgangsán*] tour business as well as North-South Korean economic cooperation is very hard situation in this times. The total number of visitors for *the Geumgangsán* during the last five years reached at 525,066 persons which is much smaller than expected at the beginning stage. The business

regarded not only just as the simple sightseeing but also as a historical event for the Korean reunification process. At the beginning stage it was evaluated as a successful output of the Kim Dae-jung government's sunshine policy, but now it is blamed as a dog in the manger.

The number of tourists for *the Geumgangsán* is getting smaller and smaller month by month in